



平成29年6月発行 発行者 砺波カイニョ倶楽部 代表幹事 出村 忍  
事務局 富山県砺波市表町 14-10 電話 0763-33-6588 天野一男建築工房内

□総会資料□

1) 平成28年度事業報告

- 5月22日 総会（旧中嶋家にて） 事務局長天野氏が活動18年目にあたり、散居村・屋敷林の重要性と将来について問題提起し、出席者の意見交換
  - 7月31日 立山杉見学会 参加者27名（会員14・非会員13）樹齢500-800年の杉大木を見学。砂防博物館でカルデラの映像を見る。西大森の大石。月岡神社のセンノキ等見学
  - 9月22・23日 安曇野より、砺波の屋敷林を見学に「屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトチーム15名」岡本晃一宅と高田隼水宅を見学。コスモス荘で懇親会
  - 7月23日 講話を聴く会（新藤正夫先生の富山風雪賞受賞記念）参加者49名。神田宅にて先生に「散居村の成り立ちと生活。そして、今後の散居村のあり方と生き方」を聴く講話後、庭を眺め、お茶を頂く。  
なお、実行委員会組織にて（砺波散村地域研究所、砺波郷土資料館、となみ散居村ミュージアム、NPO法人砺波土蔵の会、えんなか会、砺波カイニョ倶楽部）
  - 10月8日 カイニョの掃除（武部由美子宅）参加者8名
- 平成29年

- 3月24・25日 「屋敷林フォーラム」  
安曇野にて（出村・高畑・松村 参加者3名）

4) 役員改選（案）

代表幹事・出村 忍。 会計・高畑邦男  
幹事・堀 浩一、松田 憲、小幡良和、  
柏樹直樹、金岡奈穂子  
監事・中田ちず子  
事務局・天野一男、大甲りえ

5) 平成29年度事業計画（案）

基本テーマ「市民と共にカイニョを知ろう」  
住民へ行事参加者を募集する

1. 総会・講演会  
(平成29年6月3日・旧中嶋家にて)
2. 出前講座  
(子供達へカイニョの良さを伝える)
3. 巨木の見学会  
(片貝川上流で、根が大岩を巻き込み、  
生きる執念を感じる大木)
4. カイニョの見学会
5. カイニョの掃除  
(住民へ掃除希望宅を募集)

2)平成28年度決算報告

平成28年5月1日～平成29年4月30日

収入			
項目	金額	内訳	備考
会費	127,000	85,000	郵便局振込
		42,000	現金
寄付	20,000	10,000	小泉由和様
		10,000	大沢様
利子	4	4	県信出町支店
行事会費	301,100	141,500	立山杉見学会
		159,600	安曇野来訪
繰越金	204,599	204,599	前年度繰越金
収入合計	652,703		

支出			
項目	金額	内訳	備考
総会費	4,898	4,898	
行事費	333,387	149,707	立山杉見学会
		166,330	安曇野来訪
		12,840	講話を聴く会
		4,510	カイニョの掃除
通信費	41,432		案内状等の送料
雑費	14,772		用紙 インク他
事務費	10,000		天野
合計	404,489		

収入合計 652,703 支出合計 404,489  
差引残高 248,214

3)監査報告

会計監査報告

平成29年5月22日に会計監査をしたところ、適正に処理されていたことを報告します。

監事 中田 千穂子



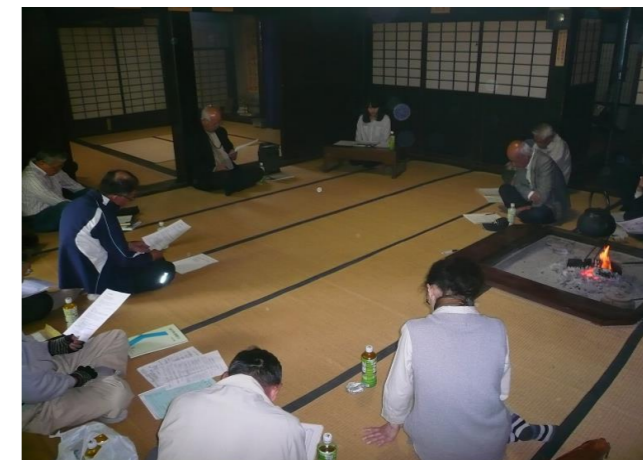
\*\*\*平成29年度総会を開催\*\*\*

6月3日（土）午後1時30分よりチューリップ公園内の旧中嶋家で囲炉裏を燃し総会を開催した。はじめに出村忍代表幹事が挨拶の中で、安曇野へ2度行ったことを。はじめは、屋敷林フォーラムに出席したこと。2度目は、5月29日砺波市農林課主催の「屋敷林先進地視察」に参加し、参加9名の内、保存樹関係が3名、農林課4名、当倶楽部2名であったことを。その際、補足説明として参加した事務局天野より、安曇野市役所での説明のさい、都市計画課・観光課と農林課の3課が説明下さり、屋敷林が安曇野において如何に重要であるかがうかがわれたこと。

審議に入り、平成28年度事業報告・会計報告・会計監査報告があり、満場一致で承認された。平成29年度は、「市民と共にカイニョを知ろう」を基本テーマに、「出前講座（子供達へカイニョの良さを伝える）」・「片貝川上流の巨木見学会」など5つの事業が承認された。

審議終了後、講師 石灰 希先生より「外から見た屋敷林と住民意識」と題し講演を頂いた。先生は、今年京都大学大学院 地球環境学舎を終了され、論文に砺波の散居村をテーマになされた。講演では、屋敷林調査でのアンケート結果をもとに説明があり、聴衆はうなずきながら聞き入った。（資料は別紙）中でも新しい視点として、屋敷林は防災機能を持つという現代的価値を指摘され、まとめとして「今後の屋敷林は、自然災害に強く、管理が容易、ライフスタイルに適した形態に。これまで以上に住民の意見や要望を取り入れ、多様な形態を含め再構築を視野に入れた保全策が必要」とのことであった。

講演終了後、柏樹氏より下記の意見を求められた。「旧中嶋家の屋根の茅の葺き替えを行う予定である。ついては、家の西側のカイニョのすぎ数本が邪魔と聞く」皆さんの意見は？ 現場を見た方々から「枝を切れればよい」「枝が屋根に近いが、前回の葺き替えで問題は無かった」「すぎを切るのはダメ」などであった。3時過ぎに日程を終了した。後日、総会の模様を北日本新聞と富山新聞が報道した。



総会の様子

●「石灰先生の講演資料」●

修士研究での屋敷林調査

2017年6月3日  
石灰 希

◇研究の目的◇

- 1, 今日の屋敷林の分布状況や住民意識を明らかに
- 2, 地域特性や、近年の屋敷林の減少要因・背景を分析
- 3, 長期的視点での保全に向けた方策の検討

◇研究の方法◇

- ・調査集落…砺波市 小島, 五郎丸第2常会, 荒高屋第7常会, 南砺市 北野次郎丸地区
- 1, 集落内での屋敷林に関するアンケート・ヒアリング
- 2, 各家屋周辺の外観写真を撮影し、樹木の有無や方角を定性的に捉える

◇アンケート調査の概要◇

・時期：2016年10月～11月    ・アンケート配布：184世帯、回収率：93%、有効回答数：165世帯

◇考察◇

1. 現在の屋敷林について

- ・屋敷林の減少傾向は続く
- ・屋敷林の「外観」や「機能」以上に「管理のし易さ」を重視  
⇒ **屋敷林を残したい気持ちがある一方で、負担が実利を上回っている、少子高齢化の影響も顕著**

2. 屋敷林の現代的価値・役割について

- ・屋敷林の防災機能について、災害時の緊急の役割を持ち得ないと回答した世帯が約半数  
⇒ 屋敷林が防災機能を持ち得るという認識低く、新たな価値として掲げられるほど認知度も高くない
- ・屋敷林の面数が多い世帯ほど、機能を持ち得ると回答した世帯割合が高い  
⇒ 各家庭の屋敷林の形態や関わり方に応じた有効な活用方法を見出す必要性

3. 屋敷林の多様化と保全に向けた方策について

- ・屋敷林の多様化
- 北野：風に対応した屋敷林の配置、防風機能を最も重視
- 五郎丸：屋敷林は縮小されつつも比較的良好な景観が維持されている【例：高木を減らして果樹や畑に】  
⇒ **時代の変化に柔軟に対応している事例**
- 荒高屋：屋敷林の外観を重視、国道沿いに樹木のない世帯が集中
- 小島：比較的面数の多い屋敷林形態が残っている  
⇒ **地域のコミュニティ活動や文化を大切にしている姿勢が屋敷林保全につながっている事例**
- ⇒ 屋敷林と前向きにかかわることができる多様な形態
- ⇒ 地域コミュニティの中で屋敷林を保全する取り組み

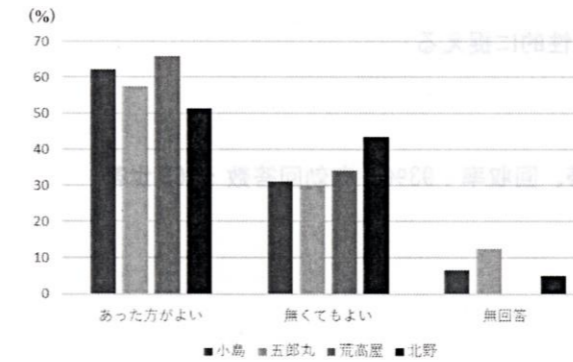
◆まとめ◆

- ・砺波平野における今後の屋敷林…自然災害に強く健全、管理が容易、各戸のライフスタイルに適応した形態
- ・これまで以上に管理主体である住民の意見や要望を広く取り入れ、多様な形態の存在を含めた再構築を視野に入れた保全策が必要

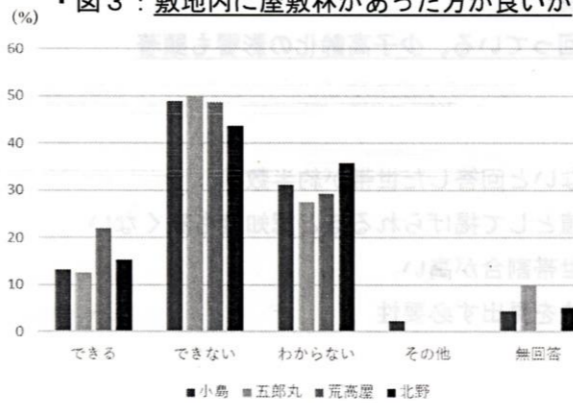
<アンケート調査結果>

	割合(%)
減少	40
全て無くなった	7
変化なし	36
増加	9
元から無い	4
無回答	4
合計	100

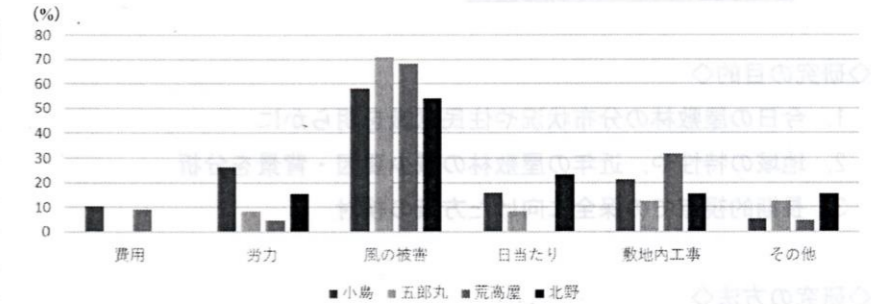
・図1：屋敷林の2000年以降の変化



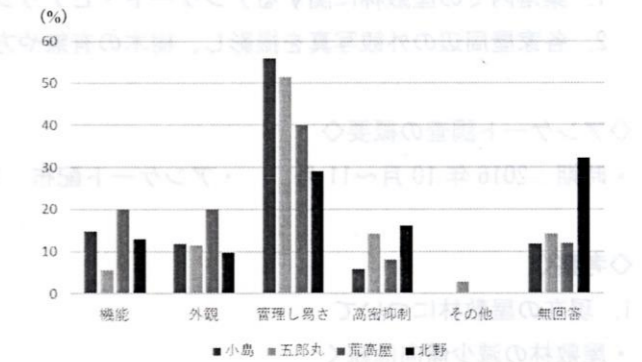
・図3：敷地内に屋敷林があった方が良いか



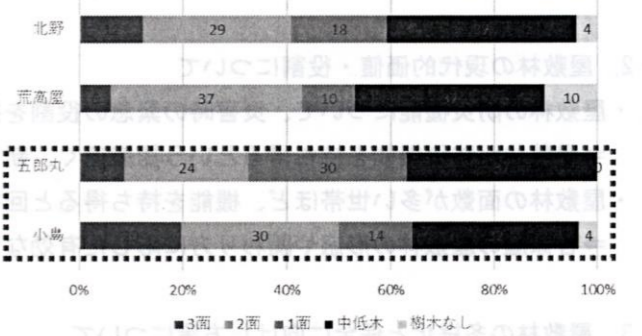
・図5：屋敷林の防災機能について



・図2：屋敷林減少の要因



・図4：屋敷林を維持する上で重視する点



・図6：樹木の配置面数

<ヒアリング調査>

- ・屋敷林を伐採した後、家が傷みやすくなってしまった
- ・屋敷林保全よりも、少子高齢化の方が集落にとって大きな問題
- ・昔のようにゆっくり時間をかけて木を使う状態まで管理しなくなった
- ・昔は子や孫のために残していた木を今は子や孫のために切っている
- ・今あるのは切るのにも費用が掛かるから消極的に立っているだけ
- ・手入れが簡単なもので、日陰もほしい家も守りたいから手のかからない何かしてほしい